

概要

1. 目的

現在、フォーサイト¹は世界各国・機関で幅広く実施されている。それぞれの目的や対象等にあわせて様々な手法が適宜組み合わせられて適用され、その結果は政策形成プロセスに組み込まれるようになっていく。科学技術・学術政策研究所では科学技術予測調査を実施しているが、政策立案への貢献、社会・経済的視点の取り入れ、データ活用等について、常に最新の知見を取り込む必要がある。そこで、他国や国際機関の取組から示唆を得るとともに、国内外の幅広いコミュニティ形成やネットワーク構築の一助とすることを目的として、本調査を実施した。

2. 方法

フォーサイト専門家によるセミナーをオンラインにて開催し、フォーサイトの検討プロセスや手法、政策との関係性などについて情報や知見を収集するとともに意見交換を行った。本調査では、科学技術における政策や社会との関係性、フォーサイト手法について最新の情報を把握することを目的として、二つのテーマを設定した。

○テーマ A：コロナ禍がフォーサイトに与えた影響

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行のようなワイルドカード（不確実な将来の機会や脅威）の扱いやフォーサイトの政策立案への貢献など、今後のフォーサイト活動の方向性への示唆が期待されることから本テーマを設定した。

○テーマ B：フォーサイトにおける共創と創造性

外挿だけでは見えない未来を描くための共創（多様なステークホルダー参加）や創造性（想像力やストーリーテリング等）を活用する上の課題等への示唆が期待されることから本テーマを設定した。

上記テーマの検討に資する事例として、第 1 回は、政策検討に資するフォーサイトを実施している世界最大規模のグループを持つロシアと、アフリカにおけるフォーサイトのハブを目指しているエジプト、第 2 回は、APEC（Asia Pacific Economic Cooperation）のフレームで長年フォーサイトを実施しているタイと、地域を主体としたフォーサイトを実施している中国の上海、第 3 回は参加型プロセスを重視しているヨーロッパの 2 事例の全 6 講演を設定した。概要を図表 1 に示す。なお、講演者の選定や講演の実施は、ロシアのウクライナ侵攻前であったことを明記しておく。

¹ 未来を予見し、デルファイアンケート、シナリオ作成、ワークショップなど複数の手法を組み合わせ、目指すべき社会の姿を描き、その実現に貢献する科学技術や社会システム等を抽出する試み。

図表1 セミナーの概要

開催回／開催日	概要
第1回セミナー 2021年12月9日 (木) 16:00～18:00	[テーマ] コロナ禍がフォーサイトに与えた影響 ◆ 講演1：HSEにおける科学技術フォーサイト：方法論と実践 (Dr. Alexander Sokolov, HSE, Russia) ◆ 講演2：COVID-19以降のエジプト、その機会と課題 (Dr. Mohamed Ramadan A. Rezk, ASRT, Egypt)
第2回セミナー 2021年12月16日 (木) 15:00～17:00	[テーマ] コロナ禍がフォーサイトに与えた影響 ◆ 講演1：タイ及びAPECにおけるフォーサイト活動 (Dr. Surachai Sathitkunarat, NXPO, Thailand) ◆ 講演2：上海における技術フォーサイトの研究と実践 (Dr. Zhuang Jun, SISS, China)
第3回セミナー 2022年1月20日 (木) 16:30～18:30	[テーマ] フォーサイトにおける共創と創造性 ◆ 講演1：フォーサイト活動における共創～欧州フォーサイト における多様なアプローチ～ (Prof. Dr. Kerstin Cuhls, FhG- ISI, Germany) ◆ 講演2：未来を理解し共に形作るための参加型未来予測の事 例 (Ms. Tanja Schindler, Futurist, Germany)

セミナーの参加登録は約120名で、その内訳は、民間企業19%、大学32%、国立研究開発法人9%、行政機関10%、個人2%、海外20%、その他9%(兼任含む)であった²。

3. 講演概要

3-1. ロシアにおけるフォーサイト

ロシア・国立研究大学高等経済学院(HSE)からは、国家戦略のための科学技術フォーサイトに関して、ビッグデータ分析、定量的分析、専門家の意見・結果の検証などの紹介がなされた。

フォーサイト活動の特徴

- ・ 科学技術フォーサイトは、国家安全保障戦略、社会経済開発戦略、科学技術戦略の背景となっており、これに基づいて優先度の高い科学技術分野と重要技術が特定される。
- ・ HSEのフォーサイトは、さまざまな目的に対応した活動を行う、アプリケーション駆動型である。グローバルトレンド等を把握した上で科学技術発展に関するシナリオを

² セミナーはオンラインで開催したため、セミナーごとの参加登録ではなく、1回から3回の全体について参加登録を行った。

作成する。続いて市場、製品・サービス、新技術、新研究分野などから優先事項を特定し、ロードマップを作成する。

- ・ 500 万以上の文書を含み、非構造化データ処理ツールを備えた分析システム iFORA (Intelligent Foresight Analytics System) を整備している。人工知能を用いて、主要トレンド、主要市場、必要な教育とスキルの特定、ベンチマーキング、政策分析等が可能となっている。

フォーサイト活動の現在

- ・ [トレンド分析]
主要なトレンドを特定した上で、そのドライバーと障害を明確化する。続いて STEEPV³分析を行い、ロシアにとっての機会と課題を特定する。続いて、トレンドにしたがってタイムラインを作成し、将来の重要イベントを特定する。これらを踏まえ、市場の潜在可能性を評価するとともに、iFORA を用いて技術の経済的影響、各領域のキープレーヤーなどの情報を得る。また、ワイルドカード分析も実施する。
- ・ [スキル需要予測]
将来のスキル需要予測を重視している。トレンドや市場変化を踏まえて労働市場への影響を分析し、将来的なスキルの必要性を分析する。
- ・ [科学技術の優先順位付けとロードマップ作成]
フォーサイト結果やモニタリング情報（科学技術情報、社会・経済的課題）を基に重要技術を特定し、そのロードマップを作成する。作成に当たっては、主要市場→主要製品→必要な特性の特定→必要な技術の特定、と検討を進める。
- ・ [科学技術のフロンティア分析]
iFORA を利用し、2020 年に最も急速に発展した分野を特定した。
- ・ [人的資本プロジェクト]
トレンド、雇用とスキル、技術変革などの研究を実施しており、教育プログラムへの提言も行っている。この大きなプロジェクトの中にフォーサイトが含まれ、COVID-19 パンデミックが社会の発展に与える影響に焦点を当てて検討している。
- ・ [デジタル経済]
デジタル経済に関する多くの新しい研究を行っており、最も急速に発展している高度技術の特定を行っている。各分野からのデジタル技術の需要も評価した。

フォーサイト活動の今後

- ・ HSE は AI 研究センターを立ち上げた。ロシアで大規模なコンペティションが行われ、HSE を含む 6 機関が多額の資金を得た。このプロジェクトの中で科学技術活動にお

³ 社会(Social)、技術(Technological)、経済(Economic)、環境(Environmental)、政治(Political)、人々の価値観の変化(Values)の6つの視点を行き来して、物事を複数の側面から把握する手法のこと。

る自動分析サービスを開発する予定である。

- ・ ロシア政府から 10 年間の開発プログラム助成金を獲得した。このプログラムの下で多くの戦略的プロジェクトを開始する。さらなる方法論開発、教育コース開発、フォーサイト研究を計画している。

3-2. エジプトにおけるフォーサイト

エジプト・科学研究・技術アカデミー (ASRT) からは、COVID-19 後のエジプトの将来に関する研究、特に輸送、ICT、産業、教育、科学研究をテーマに、デルファイ法、シナリオライティング、フューチャーホイール法等を手法として取り入れている紹介があった。

フォーサイト活動の歴史

- ・ エジプトでは、1970 年代半ばから包括的なレベルで未来研究を行うイニシアチブが開始された。1970～1980 年代には、FAO(国際連合食糧農業機関)、OECD(経済協力開発機構)、Third World Forum などによるフォーサイトが実施された。
- ・ 1996 年から 1997 年にかけて、「エジプト 2020」プロジェクトが立ち上げられ、エジプトのフォーサイトに新たな転機が訪れた。首相直属の未来研究センターが設立され、2004 年から 2020 年の間に、エジプト科学技術イノベーション展望研究所 (ASRT-ESTIO)、未来研究・リスク管理評議会など、多くの新しい組織が生まれた。
- ・ ASRT-ESTIO は、政策立案者や意思決定者に科学的支援を提供することを目的としている。様々な機関の専門家から構成され、評議会と協力する責任を担っている。

フォーサイト活動の現在

- ・ 現在、コロナ禍後を見据えてエネルギー、水、交通、ICT、産業、教育、高等教育、科学研究などでイニシアチブが開始されている。例えば、エネルギーに関しては、ナイル大学、NISTEP 及び MIGHT (マレーシア) との共同でフォーサイトを実施した。デルファイ法とシナリオライティング手法を用いて、二つのシナリオを作成、高等教育・科学研究大臣、電力省、首相に提出した。水に関しては、専門家 30 名による検討によってシナリオ (最善/最悪など) を作成した。
- ・ フォーサイト実施に当たってのエジプトの課題は、人材、文化、研究資金、協力関係などの不足である。専門家が少なく、学位やカリキュラムもない。
- ・ エジプトにおける COVID-19 パンデミックの影響としては、経済的影響 (海外投資や企業収益減、オンライン取引増、デジタルインフラ整備)、科学技術への影響 (医学、薬学、医療、公衆衛生、健康、情報技術への投資増)、社会的影響 (不十分な医療システム、対人業務や共同研究の中断) が見られた。これを踏まえ、ASRT は、ポストコロナ世界の科学研究の優先順位の明確化を行い、高等教育・科学研究省は優先事項に関するロードマップを作成した。
- ・ ASRT は、輸送、ICT、産業、高等教育などさまざまな分野で、COVID-19 後のエジプ

トの未来像の策定に関する一連の研究を開始した。約 400 名の専門家が参加し、デルファイ法、シナリオライティング法、フューチャーホイール法等を適用して検討を行っている。例えば、グリーン交通シナリオ、教育の未来、第 4 次産業革命等に関する様々なシナリオを作成している。

フォーサイト活動の今後

- ・ エジプトでは 7、8 年前には誰もフォーサイトについて話していなかったが、今は大統領から支援を受けるまでになった。高等教育・科学研究大臣や ASRT 会長からの支援もある。エジプトでは政策決定の文化が変わりつつあり、フォーサイト研究が発展していくだろう。

3-3. タイ及び APEC におけるフォーサイト

タイでは、APEC 技術予測センター (APEC CTF) が APEC を対象として長年フォーサイトを実施している。また近年は、国家高等教育科学研究イノベーション政策審議会事務局 (NXPO) がタイ国内をターゲットとしたフォーサイトを実施している。ポスト COVID-19 フォーサイトについて NXPO が検討している事例や、COVID-19 収束後に取るべき政策立案に資することを目的に実施してまとめた、政策審議会に提示した中略戦略について説明があった。スキヤニング、シナリオライティング、インタビュー、STEEPV 分析が主な手法である。

タイのフォーサイト活動の現在

- ・ [ポストコロナに関するフォーサイト]
NXPO は、COVID-19 後の政策立案に向けて、シナリオライティングによるフォーサイトを実施した。文献調査、有識者パネル、STEEPV 分析を基に 4 つのシナリオ (COVID-19 流行状況軸×経済状況軸) を作成した。シナリオでは、公衆衛生的・社会的・経済的・教育的側面の検討を行った。シナリオに基づき、5 つの中核戦略を設定した。
- ・ [サーキュラー・エコノミー・テクノロジー・フォーサイト]
2 年ほど前からプロジェクトを実施している。政府ばかりでなく他の組織に対しても、新しい持続可能なエンジンとして、また経済モデルとして、BCG (バイオ/サーキュラー/グリーン・エコノミー) モデルを提唱し、タイ政府は、BCG モデルを国のアジェンダとして来年に向けた取組を検討中である。コンセプトモデル (Value Hill) に沿って、付加価値を循環させる。自発的な基準、規制案、需要側/供給側のインセンティブなどが実現にむけた課題として挙げられている。

APEC のフォーサイト活動の現在

タイのプロジェクトを APEC にも提案した。タイ政府の自己資金によるプログラムで、

チリ、インドネシア、チャイニーズ・タイペイ（台湾）等が共同スポンサーになっている。目的は、技術ロードマップ作成、グローバルマーケットの探索、APEC メンバー間の協力体制の検討である。APEC 政策パートナーシップともつながっている。2022 年の APEC サミットでワークショップを実施する予定であり、パートナー国からの提案があれば、政策勧告を APEC 閣僚会議等の会合で提案できる。

3-4. 中国におけるフォーサイト

中国では、近年地域をターゲットとした技術フォーサイトが大都市ごとに実施されている。今回は、上海市科学学研究所（SISS）から 2035 年のグローバルなイノベーション都市のビジョン策定、ミッション指向型技術フォーサイトを実施した内容について説明があった。俯瞰的フォーサイト、キーテクノロジーの体系的分析が主な調査内容である。

フォーサイト活動の歴史

- ・ 上海市科学学研究所（SISS）は、テクノロジー・フォーサイトを 2001 年から 20 年ほど実施している。都市レベルでフォーサイトを実施する目的は、地元の社会・経済への貢献、賢明かつ合理的な投資の支援、科学技術イノベーションのガバナンス、フォーサイト環境の醸成、である。
- ・ テクノロジー・フォーサイトは、5 年サイクルのスキームで実施している。ビジョン（15 年後の上海）構築、技術水準評価、中核となるキーテクノロジーの優先順位付けを行う。次に、政府に主要プロジェクトを提案し、受け入れられるとロードマップを作成する。主要プロジェクト提案は、いくつかの技術を組み合わせてプロジェクトに仕立てたものである。5 年前のフォーサイトでは 16 件提案したが、上海第 13 次科学技術イノベーション 5 か年計画に挙げられたプロジェクトの約 9 割が、提案に関連していた。

フォーサイト活動の現在

- ・ [ビジョン]
上海の 2035 年ビジョン（エコシティ、イノベーション都市、人間中心都市）を達成するためにどのような技術イノベーションが求められるか、ミッション指向型のフォーサイトを実施した。まず、上海と他のグローバル都市との比較（技術トレンド、ビジョン、将来動向）を実施し、科学技術進歩、マクロ環境変化、都市開発について、16 の将来都市インサイトを得た。次に国別の技術水準評価を実施して上海の現状を把握した。
- ・ [キーテクノロジー]
テクノロジー・フォーサイトとして、キーテクノロジーリストを作成した。まずインサイト分析により初期リストを作成、続いてトピックグループ（4 分野 + X 分野（横断領域））ごとにキーテクノロジーを選定し、デルファイ調査やグループディスカッション等により、それらの調査及び評価を行った。キーテクノロジーとして 426 の技術が

識別された。

- ・ [シナリオ]

426のキーテクノロジーと16の将来都市インサイトを組み合わせ、4モジュール(基礎研究、地域イノベーション、スマートシティ、市民の幸福感向上)を形成し、これをサポートする技術として、17研究分野、54応用分野、341技術を特定した。これに基づき、四つのシナリオ(各々3シーンで構成)を作成した。これを踏まえて設定された40のミッションは、2035年技術計画に取り込まれることになる。また、四つの長期的科学技術開発目標も設定した。

- ・ [マルチデータ抽出分析プラットフォーム]

科学関連レポートの分析に基づく技術用語抽出、論文分析に基づくホットエリア抽出、グローバル都市別キーワード抽出、ウェブサイト情報のセグメンテーション分析によるホットワード抽出等を実施している。政府情報(政府レポート)、学術情報(論文等)、生活情報(ソーシャルメディア)、メディア情報(伝統的メディア)、産業情報(web上の証券情報、ベンチャーキャピタルニュース等)といった多次元の情報を収集・分析するプラットフォームを用意し、ホットテクノロジーのランキングや変遷の追跡等を実施している。

3-5. 欧州におけるフォーサイト：フォーサイト活動における共創

欧州では共創型フォーサイトが盛んに行われている。フラウンホーファー・システム・イノベーション研究所(FhG-ISI)から、EU全域またドイツでの関連事例を紹介頂いた。EUから研究助成を受けたプロジェクトとして、持続可能な望ましい未来についてのビジョンを策定し、将来の研究・イノベーション政策やテーマに係る提言を得ることを目的としたCIMULACT(Citizen and Mutli-Actor Consultation on Horizon 2020)や、ポスト COVID-19時代に欧州社会に利益をもたらす研究・イノベーション政策の選択肢を明らかにすることを目的とした Foresight on Demand After the new normal プロジェクトの事例、及びドイツ政府のハイテク戦略における事例が紹介された。

フォーサイトにおける共創とは

- ・ プロセスに人々を関与させ、プロセスを実施する側も学んでいくのがフォーサイトにおける共創である。
- ・ 欧州レベルではビジョン構築のためのフォーサイトが盛んであり、これは特に研究開発、イノベーション分野で必要とされている。市民関与の必要性が高まっており、より多くの人、より多くの視点を導入しようとしている。

CIMULACT プロジェクト

- ・ EUの研究開発枠組み計画(FP9)「Horizon Europe」に欧州市民のアイデアをイン

プットすることを目的として実施された。

- ・ 第 1 ステップとして、全 EU 加盟国でアカデミア、産業、市民、学生などが参加するワークショップを実施し、新しい枠組み計画への需要・期待を議論した。続いて、出されたアイデアをクラスタリングするワークショップを実施し、12 クラスタ、26 社会ニーズを特定した。
- ・ 第 2 ステップとして、共創ワークショップを開催し、社会ニーズに基づくビジョンから研究・イノベーションのアジェンダ設定を行った。展示会方式で事前情報（前ステップの結果）を共有した上で、市民が作業し、48 研究課題とシナリオを作成した。
- ・ これを基に、全欧州カンファレンスにおいて専門家等が研究課題を精査し、複数のプログラムを欧州委員会に提案した。

ドイツのハイテク戦略における参加型プロセス

- ・ 政策形成との関係で成功した事例として、ドイツのハイテク戦略にかかるビジョン形成プロセスがある。
- ・ ハイテク戦略の 12 のミッションをクラスタリングし、地域参加型の共創ワークショップを実施した。専門家も含めた市民参加ワークショップで議論を進め、その結果はハイテク戦略の検討の場に直接インプットされた。

Foresight on Demand After the new normal

- ・ 欧州の COVID-19 後のシナリオ、人類が迎える全く新しい世界について 2040 年を視野に入れたプロジェクトで、クライアントである欧州委員会自体も参加者となって、共創ワークショップを実施した。
- ・ メガトレンドや New signal の探索等のホライズン・スキヤニング後、短期間でシナリオを作成する「シナリオスプリント」を実施した。インフルエンス・マトリックス等を用いて経済的・政治的要因を明確化し、2040 年に向けて様々な前提を置いて検討を行った。欧州委員会の部局関係者も参加し、共同で様々な代替案を議論した。続くワークショップでは、政策形成に関わる様々なランクの関係者が参加し、将来につながる道筋を検討した。
- ・ ワorkshop作業を通じて、4 本のシナリオが作成されたが、欧州委員会の求めに応じ、よりポジティブなシナリオ 1 本が追加された。デルファイ調査で得られた情報は、シナリオやストーリーに埋め込まれた。

フォーサイト活動の今後

- ・ 市民の関与への要求はますます高まっている。フォーサイトに有用な形で市民を参加させるには困難を伴い、時間制約の解決や大量の情報の提供・活用方法等が鍵となる。より多くのスポンサーやクライアントを直接関与させること、オープンでクリエイティブなワークショップを行うことが肝要である。異なるレンズを通して未来を見通すプロセスに多くの人に関与してほしいと思う。

3-6. 欧州におけるフォーサイト：未来を理解し共に形作るための参加型未来予測

欧州より研究助成を受けた研究プロジェクトとして、将来を探索するための手段としてのストーリー・ナラティブ作成を中心に据えた Stories from 2050 プロジェクトについて、紹介があった。Clean Planet 2050 のビジョンの達成、及びそのための European Green Deal の実施を支援するため、地球に住めなくなるとの前提で、ワークショップ、専門家パネル、ストーリー、ナラティブといった手法を用いてラディカルなシナリオが作成された。

Story from 2050

- ・ ストーリーは、将来を探求したり、様々な視点を導入したりするための非常に強力な手段となる。本プロジェクトは、欧州グリーンディール戦略の長期ビジョンの開発支援、及び、市民参加を通じたグリーンディール実施の支援を目的として実施された。様々なアイデアを組み合わせて参加型で未来を形作るプロセスをとった。
- ・ ウィークシグナルや個人ベースの未来ストーリーをプラットフォーム上で共有するほか、共創プロセスにより未来ストーリーを新たに作成した。ストーリー作成のために、三つの検討ストリームが設定された。一つ目のストリームは、ストーリーライン設計ワークショップである。まず、キックオフワークショップでワークショップ参加者からのインプットに基づきプラネット・ナラティブ（ある惑星に関する記述）が作成された。次いで、ペルソナ設定やエンパシーマップを利用して当該惑星での未来の 1 日が描かれた。二つ目のストリームでは、プラネット・ナラティブと個人のストーリーを統合させ、プラットフォーム上で未来のイメージやそれに対する感情を共有した。三つ目のストリームでは、プラネット・ナラティブやスキミング情報等を基に専門家による議論を行った。ステークホルダーを特定してバックキャストの検討を行い、政策立案者や市民がなすべきことを明らかにして、ヒーロー物語を作成した。
- ・ [プラネット・ナラティブ] 地球にはもはや住めず、それぞれ異なる惑星を訪れる設定とした。惑星の特徴、資源、住民の価値観、システム（社会、技術、経済、環境、政治等）等を設定し、最終的に、各惑星に関する長いナラティブを作成した。
- ・ [ストーリーライン設計] プラネット・ナラティブを基に、登場人物を設定して、感情移入してストーリーラインを作成した。
- ・ [専門家の検討] プラネット・ナラティブを基に、地球の未来ビジョンの観点から専門家が分析を行った。未来ビジョンを設定した上で、現在の課題、望ましい未来への経路、最悪ケースの警告等を検討した。続いて、ステークホルダーのなすべきことやビジョン実現のステップを検討し、ヒーロー物語を作成した。

フューチャースペース

- ・ フォーサイト活動の能力開発を目的として、世界の知識を集めてトピックを探索している。現在 80 か国以上、500 以上の都市に住む 1,100 以上の人が参加している。
- ・ フォーサイト手法を理解し、ナラティブをまとめ、共有していくことを目標としている。

様々な国、文化の未来について考え、参加者の洞察をフォーサイトに取り込んでいく。

4. 講演及び意見交換のまとめ

全3回で6名の発表者を通じて、得られた知見や提案に基づき、考察した点を以下にまとめる。

○フォーサイトの意義

- 世界的に、フォーサイト活動が爆発的に増えていて、技術的な可能性や新たなツールの利用が拡大しつつある。また新たなアクターの参入や複数のコミュニティが生まれ、フォーサイトの担い手・ネットワークが拡大している。
- 将来に対する複数のイメージを持つことが重要である。例えば想定とは異なる社会が到来したときに何をすべきか見えてくる。
- 将来をつくっていくという視点が重要である。将来のイメージを作り、現在何をすべきかを考える実践は、将来に対してのエンパワーメントにつながる。誰もがフォーサイトのスキルを備え、将来を考えるべきである。

○フォーサイトの手法に関して

参加者

- いろいろな形を設定し、様々なアクターを関与させることで共創が生まれ、アイデアの多様性が増す。
- アーティストやデザイナーなど、これまであまり参加していない分野も含め、様々な分野とオープンにつながる事が重要である。
- 様々なステークホルダーとコミュニケーションをとりプロセスに乗ってもらうこと、関心を喚起していくことが重要である。その際、議論における透明性やオープンネスの確保が鍵となる。
- OECD、EC、UNESCO など公的機関のネットワークや民間のネットワークが築かれつつあり、今後ネットワーク間の調整が求められよう。

手法

- AI活用のビッグデータ分析ツールにより、将来予測の可能性は広がる。しかし、そのみでなく、人間の感性・専門性も加え、高精度な分析につなげるべきである。
- 共創・創造性を活かすアプローチとして、市民によるビジョン策定、社会ニーズに基づく研究プログラム提案、参加者自身のストーリー（ナラティブ）作成などがある。

○政策や社会との関係

政策へのインパクト

- 政策決定者とのコミュニケーションを通じてニーズを把握し、プロセスに反映させる。
- 政策決定者を初期段階から関与させる。

社会からの参加

- 様々な関係者を関与させることで、政策決定者にとって興味深い情報を得ることができる。インプット方法の工夫により、市民からもオリジナルな意見を得られる。
- 社会からの参加を継続させるためには、インプットと共創の場としてプラットフォーム構築が重要である。

情報の伝え方

- フォーサイト結果を市民に伝える会議やパブリックコメントを行う。
- 政策決定者や市民がフォーサイト結果にアクセスできる環境を整える。
- 政策決定者に対して、フォーサイトグループに入ってもらいように働きかける。
- フォーサイト結果が政策的観点から何を意味するのか、政策決定者と共に解釈する。社会におけるフォーサイトへの関心と認識を高め、様々な関係者にプロセスに加わってもらい。

○これからの取組

- 将来何が起きうるかをできるだけ幅広く事前に推測し、緊急時の対策を考える能力を持つことがフォーサイトの役割として非常に重要である。このためには、ホライズン・スキニングによる、社会ニーズの把握、多量の情報を活用した先端技術の把握等が不確定な未来の検討のための情報として重要である。
- 科学技術のみならず、芸術、文化、美意識等の観点も組み合わせて、将来をデザインすることが大切である。

フォーサイトは、世界で多くの国や機関が政策決定のツールとして活用しており、今回の6講演を通じてその事例が紹介された。いずれも目的や予算によって実施規模や方法が異なるが、将来に対する複数のイメージを持つことの重要性が挙げられ、より多くのステークホルダーを巻き込んで議論することが共通して必要とされた。そのため、フォーサイトの実施に際しては主体者のみならず、政策決定者を含めて調査の詳細を決め、得られた結果を政策議論に提供できるようなパスも予め設計しておくことが有用とされた。

また市民の参加に関しては、今後もますます重要性が高まるとされ、共創と創造性を活かしたワークショップ設計や目的に沿った方法論の検討、時間制約のある中での議論方法の検討、情報過多にならない適切な情報の提供・活用方法の検討などが必要とされた。

さらに、フォーサイト活動を支える多種多様なデータは俯瞰的に収集・分析するツールの高度化と活用、フォーサイトに関する教育、そして世界的フォーサイトネットワーク構築の重要性が指摘された。

また、日本が長年実施しているデルファイ調査に関して、講演者からは「技術予測には有用なツールであり、継続して実施していることから実現時期や実現しなかった理由なども測定でき、大変参考になる」という意見もあり、実際日本を参考にデルファイ調査を行っているという説明もあった。

フォーサイトを通じて未来に関するデータを収集できることから、エビデンスベースの

施策検討には有効かつ必要な活動であり、また、フォーサイトに参加することで皆で未来を創るということに関心が高まり、政府のみならず、研究機関などでも今後も活発に実施されるであろう、という意見が共通して出された。